

8. 參考資料

Reference

○弘前大学COC推進本部規程

(平成26年11月21日規程第78号)

改正 平成28年3月18日規程第133号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第106条の2第2項の規定に基づき、COC推進本部（以下「本部」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本部は、本学における地域活性化の中核的拠点としての機能強化を図るため、地（知）の拠点整備事業（以下「COC事業」という。）及び地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「COC+事業」という。）を総括し、当該事業を通じて地域を志向した大学改革を強力に推進することを目的とする。

(業務)

第3条 本部は、前条の目的を達成するため、COC事業及びCOC+事業（以下「COC事業等」という。）に関する基本方針を決定するとともに、当該事業を総括する。

(組織)

第4条 本部は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事
- (3) 各学部長及び研究科長
- (4) 学長が指名する副理事
- (5) その他学長が必要と認めた者

(本部長及び副本部長)

第5条 本部に、本部長を置き、学長をもって充てる。

2 本部長は、本部の業務を総括する。

3 本部に、副本部長を置き、本部長が指名する者をもって充てる。

4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、その職務を代理する。

(本部会議)

第6条 本部に、第3条に掲げる業務に関する事項を審議するため、COC推進本部会議（以下「本部会議」という。）を置く。

2 本部長は、本部会議を主宰し、その議長となる。

3 会議は、委員の過半数をもって成立する。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(推進協議会)

第8条 本部に、COC事業の実施に関する各種提言を行うとともにCOC事業における成果等について評価を行うため、青森地域COC推進協議会（以下「推進協議会」という。）を置く。

2 推進協議会の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(外部評価委員会)

第9条 本部に、COC事業に関して第三者による客観的な評価を行うため、COC外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(COC推進室)

第10条 本部に、COC事業等の実施及び連絡調整その他事業に必要な業務を行うため、COC推進室（以下「推進室」という。）を置く。

2 推進室の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第11条 本部の庶務は、事務局関係各課等の協力を得て、参事役（COC担当）において処理する。

(その他)

第12条 この規程に定めるもののほか、本部に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成26年11月21日から施行する。

附 則(平成28年3月18日規程第133号)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

○青森地域COC推進協議会要項

(平成26年11月21日学長裁定第19号)

第1 趣旨

この要項は、弘前大学COC推進本部規程（平成26年規程第78号）第8条第2項の規定に基づき、青森地域COC推進協議会（以下「推進協議会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。

第2 組織

推進協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事
- (3) 学長が指名する副理事
- (4) 青森県知事
- (5) 弘前市長
- (6) 青森県内の企業関係団体の長
- (7) その他学長が必要と認めた者

第3 会長及び副会長

- 1 推進協議会に、会長を置き、学長をもって充てる。
- 2 会長は、推進協議会の業務を総括する。
- 3 推進協議会に、副会長を置き、会長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

第4 会議

- 1 会長は、会議を主宰し、その議長となる。
- 2 会議は、委員の過半数をもって成立する。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第5 委員以外の出席

議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第6 PS協議会

- 1 推進協議会に、青森県、弘前市及び産業界の関係者等と専門的事項に関し協議を行うため、青森産官学人財育成パートナーシップ協議会（以下「PS協議会」という。）を置く。
- 2 PS協議会に関し必要な事項は、別に定める。

第7 その他

この要項に定めるもののほか、推進協議会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年11月21日から実施する。

○COC推進室要項

(平成26年11月21日学長裁定第21号)

改正 平成27年9月14日 平成28年3月18日学長裁定第26号
平成28年3月31日学長裁定第36号 平成28年9月28日

第1 趣旨

この要項は、弘前大学COC推進本部規程（平成26年規程第78号）第10条第2項の規定に基づき、COC推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

第2 業務

推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地（知）の拠点整備事業（以下「COC事業」という。）の実施に関すること。
- (2) 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「COC+事業」という。）の実施に関すること。
- (3) COC事業及びCOC+事業の実施に係る連絡調整に関すること。
- (4) 青森COC+推進機構に関すること。
- (5) その他前各号に附帯する業務

第3 組織

推進室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 理事（企画担当）
- (2) 学長が指名する副理事
- (3) 参事役（COC担当）
- (4) 専任教員
- (5) 室長が指名する教員（以下「兼任担当教員」という。）
- (6) コーディネーター
- (7) 室長が指名する部長
- (8) 総務広報課長，財務企画課長，教務課長，研究推進課長及び社会連携課長
- (9) その他室長が必要と認めた者

第4 室長及び副室長

- 1 推進室に、室長を置き、理事（企画担当）をもって充てる。
- 2 室長は、推進室の業務を総括する。
- 3 推進室に、副室長を置き、室長が指名する者をもって充てる。
- 4 副室長は、室長を補佐し、室長に事故があるときは、その職務を代理する。

第5 兼任担当教員

兼任担当教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の兼任担当教員の任期は、前任者の残任期間とする。

第6 アドバイザリースタッフ

- 1 推進室に、COC事業及びCOC+事業に関する指導及び助言を受けるため、アドバイザリースタッフを置くことができる。
- 2 アドバイザリースタッフに関し必要な事項は、COC推進室長が別に定める。

第7 その他

この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年11月21日から実施する。

附 則(平成27年9月14日)

- 1 この要項は、平成27年10月1日から実施する。
- 2 この要項の実施日の前日において現に兼任教員であって、かつ、当該任期の末日がこの要項の実施日以後である者のうち、実施日に兼任担当教員となる者の任期の末日については、改正後の第4の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則(平成28年3月18日学長裁定第26号)

この要項は、平成28年4月1日から実施する。

附 則(平成28年3月31日学長裁定第36号)

この要項は、平成28年4月1日から実施する。

附 則(平成28年9月28日)

この要項は、平成28年10月1日から実施する。

○青森産官学人財育成パートナーシップ協議会要項

(平成26年12月25日学長裁定第26号)

改正 平成28年3月18日学長裁定第27号

第1 趣旨

この要項は、青森地域COC推進協議会要項（平成26年学長裁定第19号）第6条第2項の規定に基づき、青森産官学人財育成パートナーシップ協議会（以下「PS協議会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。

第2 活動

PS協議会は、大学と地域社会の連携に関する事項について自由闊達に議論し、COC推進に係るパートナーシップを構築する。

第3 委員

PS協議会は、次の各号に掲げる委員により構成する。

- (1) 学長が指名する弘前大学の職員
- (2) 青森県及び弘前市の自治体関係者
- (3) 青森県内の企業関係者
- (4) 青森県内の報道関係者
- (5) 青森県内の市民活動団体関係者
- (6) その他会長が必要と認めた者

第4 会長及び副会長

- 1 PS協議会に、会長を置き、学長が指名する者をもって充てる。
- 2 会長は、PS協議会の会務を総括する。
- 3 PS協議会に、副会長を置き、会長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

第5 会議

- 1 会長は、会議を主宰し、その議長となる。
- 2 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

第6 委員以外の出席

会長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第7 関連組織との連携

PS協議会は、COC事業に関連する組織等と必要に応じ連携・協力・調整するものとする。

第8 庶務

PS協議会の庶務は、事務局関係各課等の協力を得て、参事役（COC担当）において処理する。

第9 その他

この要項に定めるもののほか、PS協議会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年12月25日から実施する。

附 則(平成28年3月18日学長裁定第27号)

この要項は、平成28年4月1日から実施する。

○弘前大学COC事業における外部評価委員会要項

(平成26年11月21日要項第20号)

改正 平成28年7月8日

第1 趣旨

この要項は、青森ブランドの価値を創る地域人財の育成事業（以下「弘前大学COC事業」という。）に関し第三者による客観的な評価を行うため、弘前大学COC推進本部規程（平成26年規程第78号）第9条第2項の規定に基づき、弘前大学COC事業における外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

第2 組織

外部評価委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 行政機関関係者
- (3) 企業等関係者
- (4) その他学長が必要と認めた者

第3 委員長及び副委員長

- 1 外部評価委員会に、委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 2 委員長は、外部評価委員会の業務を総括する。
- 3 外部評価委員会に、副委員長を置き、委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

第4 会議

- 1 委員長は、会議を主宰し、その議長となる。
- 2 会議は、委員の過半数をもって成立する。

第5 委員以外の出席

議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第6 その他

この要項に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年11月21日から実施する。

附 則(平成28年7月8日)

この要項は、平成28年7月8日から実施する。

COC推進本部会議 委員名簿

【平成28年4月1日 現在】

COC推進本部規程第4条	氏名	職名等
(1) 学長	佐藤 敬	
(2) 理事	吉澤 篤	理事(企画担当)
	加藤 健	理事(総務担当)
	伊藤 成治	理事(教育担当)
	郡 千寿子	理事(研究担当)
	大河原 隆	理事(社会連携担当)
(3) 各学部長及び研究科長	今井 正浩	人文社会科学部長
	戸塚 学	教育学部長
	若林 孝一	医学研究科長
	木田 和幸	保健学研究科長
	加藤 博雄	理工学研究科長
	橋本 勝	農学生命科学部長
	北原 啓司	大学院地域社会研究科長
(4) 学長が指名する副理事	曾我 亨	副理事 人文社会科学部教授
(5) その他学長が必要と認めた者	金澤 哲哉	学務部長 参事役(COC担当)

青森地域COC推進協議会 委員名簿

【平成28年11月1日 現在】

氏 名	職 名 等
佐 藤 敬	弘前大学長
三 村 申 吾	青森県知事
葛 西 憲 之	弘前市長
吉 澤 篤	弘前大学理事(企画担当)
加 藤 健	弘前大学理事(総務担当)
伊 藤 成 治	弘前大学理事(教育担当)
郡 千寿子	弘前大学理事(研究担当)
大河原 隆	弘前大学理事(社会連携担当)
曾 我 亨	弘前大学副理事
若 井 敬一郎	青森県商工会議所連合会会長 (青森商工会議所会頭)
蝦 名 文 昭	青森県中小企業団体中央会会長
竹 林 秋 雄	青森県商工会連合会会長
沼 田 廣	(一社)青森県経営者協会会長
杉 本 康 雄	青森経済同友会代表幹事
東 康 夫	(一社)青森県工業会会長
清 藤 哲 夫	弘前商工会議所会頭
島 康 子	NPO法人ぷらっと下北代表
米 田 大 吉	NPO法人プラットフォームあおもり理事長

COC推進室 室員名簿

【平成28年10月1日 現在】

氏 名	職 名 等
吉 澤 篤	理事(企画担当)
曾 我 亨	副理事 人文社会科学部 教授
金 澤 哲 哉	学務部長 参事役(COC担当)
西 村 君 平	COC推進室 助教
野 口 拓 郎	COC推進室 助教
堀 内 昭 彦	総務広報課長
村 市 悟	財務企画課長
石 川 真 理	教務課長
佐々木 宣 子	就職支援室長
古 舘 賢 樹	研究推進課長
小田桐 努	社会連携課長
小 山 宏	副理事 社会連携部長
内 山 大 史	研究・イノベーション推進機構 教授
小 磯 重 隆	教育推進機構キャリアセンター 准教授
吉 川 源 悟	COC+推進コーディネーター

青森産官学人財育成パートナーシップ協議会 委員名簿

【平成28年4月1日現在】

青森産官学人財育成 パートナーシップ協議会要項第3	氏 名	職名等
(1) 学長が指名する弘前大学の職員	曾 我 亨	(会長) 副理事
	小 磯 重 隆	(副会長) 教育推進機構キャリアセンター 准教授
	内 山 大 史	研究・イノベーション推進機構 教授
	野 口 拓 郎	COC推進室 助教
	金 澤 哲 哉	学務部長 参事役(COC担当)
	石 川 真 理	教務課長
	古 舘 賢 樹	研究推進課長
	小田桐 努	社会連携課長
(2) 青森県及び弘前市の自治体関係者	若 木 憲 悟	青森県企画政策部企画調整課長
	柴 田 幸 博	弘前市経営戦略部長
(3) 青森県内の企業関係者	櫻 庭 洋 一	青森県商工会議所連合会常任幹事
	橋 本 広 平	弘前商工会議所事務局長

青森産官学人財育成パートナーシップ協議会
 地域特定プロジェクト志向専門人財育成プログラム分科会 委員名簿

【平成29年3月1日現在】

氏 名	職名等
石 塚 哉 史	(委員長) 農学生命科学部 准教授
前 田 智 雄	農学生命科学部 准教授
前 多 隼 人	農学生命科学部 助教
西 村 君 平	COC推進室 助教
野 口 拓 郎	COC推進室 助教
辻 脇 悟 志	株式会社木村食品工業 執行役員 経営企画室長
澤 一 雄	津軽みらい農業協同組合 代表理事 専務

弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会 委員名簿

【平成28年9月1日 現在】

氏 名	職 名 等
安 田 弘 法	国立大学法人山形大学理事・副学長
本 吉 勲	函館市企画部次長 国際水産・海洋都市推進室長
竹 内 紀 人	一般財団法人青森地域社会研究所 常務理事
成 田 昌 造	青森県高等学校長協会 会長
小 山 内 世 喜 子	青森コミュニティビジネス株式会社 (青森県男女共同参画センター 館長)

■ 弘前大学COC事業新聞掲載記事

東奥日報 5面 (平成28年5月13日付)

国産サーモン産業化狙う

オカムラ食品社長 弘大で講演

デンマークやベトナムで、サーモン養殖や水産加工などの事業を展開しているオカムラ食品工業(青森市)の岡村恒一代表取締役社長(55)が12日、弘前市の弘前大学創立50周年記念会館で講演した。筋子の原材料

料買い付けを契機に1980年代後半に始めた海外進出や、深浦町でのサーモン養殖事業について語った。「チャンスを活かす。可能性への挑戦」と題し講演した岡村社長は、ソ連崩壊後、ロシア側の依頼で北方

領土・択捉島で水産加工技術を指導したり、サーモン消費量の増加から、デンマークの養殖会社を買収した経緯を紹介。回転ずしの市場拡大に合わせ、ベトナムですし用サーモンを切り分ける加工会社や日本料理店を設立した過程も明かした。

その上で「先月、サーモンが過去最高値を更新したが、ノルウェーやデンマ

ーク、チリでは養殖する場所を使い果たし、生産が増えているのが日本」と指摘。深浦町で進めるサーモン養殖

事業について「国産サーモンを産業化するのが狙い。2017年の初出荷を目指している」と述べた。講演は文部科学省「地

(知)の拠点整備事業(COC事業)」の一環。学生や佐藤敬学長、大河原隆社会連携担当理事ら約200人が聞き入った。(鎌田秀人)

東奥日報社提供

陸奥新報 16面 (平成28年6月1日付)

弘前藩士が伝承、「絶滅寸前」 錦風流尺八 学生に伝授

弘前大学(佐藤敬学長)は、今年度新設した1年生対象のローカル科目「青森の民族・芸能―弘前藩のサムライ文化」に、弘前藩士の間で伝承されてきた「根笹派大音流錦風流尺八」の講義を盛り込んでいる。講師の山田史生教育学部教授(57)は、同流派の県技芸保持者4人のうちの1人で、「絶滅寸前の錦風流を知ってもらう良い機会」と大学教育を通じて伝統芸能の後継者不足解消に向け取り組んでいる。(船越太郎)



塩化ビニール製の尺八を吹奏する学生

弘大 歴史や奏法、新設科目に盛り

技芸保持者 後継者も期待 山田教授

同流派は1818(文政元年、弘前藩9代藩主津軽寧親の命を受けた吉崎八弥好道により始まった。現在の技芸保持者では山田教授が最年少で、他の奏者も50〜60代。山田教授は後継者育成の一環として、本県の歴史・文化を扱うローカル科目に同流派の講義を盛り込むよう大学側に提案し、採択された。

受講生は218人。4月から同流派の歴史などを学び、5月からは難易度が高いとされる尺八の吹奏を練習している。尺八は塩化ビニール製。

同17日の授業には学生の尺八を制作したニック・ブランドさんも参加。山田教授に錦風流を学んだブランドさん

んを交えた質疑応答や奏法のレクチャーが行われ、最後に全員で課題曲「もののけ姫」を合奏した。

人文社会科学部の附田百恵メロディさんは

「トロンボーンは吹けるが尺八は音を出すだけでも大変。金管楽器との違いが楽しい」と充実した表情を見せる。授業が終わってか音を出してみたい」と話した。山田教授は「最初の目標は「尺八の音を出す機会が少なかつたこと。その中から錦風流に興味を持つ学生が1人でも出てきてくれれば」と期待を込めた。

陸奥新報社提供

起業に必要なスキルは

弘大で今年度のセミナースタート

学生や市民参加 投資ファンドの講演も



山家さん(右)の講演に聴き入る参加者

2016年度の弘前大学起業家塾が22日、同大で始まった。1回目はベンチャー企業に投資するファンドの講演や、収支計画を作成するためのワークショップが開かれ、学生や市民ら参加者が、起業に必要なプロセスマススキルを学んだ。(西尾 瑛)

セミナーには今年度、投資の際には①世の中のとどんな課題を解決したいのか②情熱③課題解決が可能な技術「テクノロジ」に対して投資を行っているのと④「対外的にベンチャーキャピタルファンド」「リアルテックファンド」のグロースマネージャー山家創さんが、同ファンドの運営方法などについて説明。

実際に投資を行っている大学発ベンチャーの取り組みを示しながら行った。

陸奥新報社提供

起業家塾は全6回開催し、11月の最終回はビジネスプランコンテストを行う。

新たなビジネス 後押し 弘大で起業家塾スタート

弘前



ワークショップで収支計画について話し合う参加者

弘前大学でこのほど、学生や研究者、経営者らを対象にした本年度の起業家塾がスタートした。起業に関心を持つ約20人が11月まで全6回受講し、ビジネスモデルの構築を目指すことに

2年目となる本年度は講演だけでなくワークショップを取り入れるほか、専門家が助言する「メンター制度」も導入。課題解決に向け参加者をサポートする。

この日はベンチャー企業に投資する「リアルテックファンド」(東京)の山家創氏が講演。微細藻類ミドリムシでバイオ燃料などの生産を目指す企業「ユークレナ」への投資実績などを紹介し「自信と情熱を持って技術があれば、ぜひ一緒に世界を愛するビジネスに挑戦しよう」と呼び掛けた。

また、みちのく銀行地域創生部担当役の小向耕介氏を講師に迎え「収支計画作成の基礎」をテーマに、ワークショップも行った。

参加者の1人、農学生命科学部2年の國岡美里さん(20)は「将来、単に新規就農するだけでなく、何か新たな農業ビジネスを具体的に考えていきたい」と語った。(鎌田 秀人)

東奥日報社提供

陸奥新報 2面 (平成28年9月30日付)



10人が学びをスタートさせる弘大・白神自然環境人材育成講座の開講式

白神の自然学び意欲

弘大人材育成講座 市民ら対象、2年間

弘前大学で29日、一般市民らを対象とした「白神自然環境人材育成講座」の開講式が行われた。受講者は今後2年間かけて、白神山地をはじめとした自然環境に関する知識と、安全に配慮した管理・活用を学ぶ。

弘大の学生とともに学ぶ教養4科目(96時間)と、現地調査やワークショップなど実践的学びに重点を置いた、白神を深く学ぶ特設科目6科目(47時間)を組み合わせた計

10科目(143時間)の専門人材育成講座で、弘前市と周辺市町村に住む20〜70代の10人が挑戦する。修了者は、弘大が実施する白神をテーマとした事業に参画することなども期待されている。

開講式で佐藤敬学長は「講座を通して皆さんの生活に新たな側面が生まれ、地域においてさらに大きな役割を果たしていただければ幸いです」とあいさつ。履修生代表として宣誓を行った弘前市の中

学校教員平川周二さんは、「知らないことを学ぶことにわくわくしている」とし、「講座で学び、他県から来る子どもたちの方イドなどもしてみたい」と意欲を語った。(西尾瑛)

陸奥新報社提供

東奥日報 19面 (平成28年10月6日付)

白神の管理・活用研修

弘大が初の講座 社人10人受講

弘大は、弘前市の同大付属図書館で「白神自然環境人材育成講座」の開講式を行った。学校教育法改正で創設された「履修証明制度」を活用した弘大初のプログラム。20、70代の社人10人が2年間、白神山地の管理や活用に向け、学生と一緒に講義を受けたり、ワークショップ

などで実践を学ぶ。

佐藤敬学長が告辞で履修生を激励後、履修生を代表して、中学国語教諭の平川周二さん(51)同市、常盤野小中Ⅱが宣誓文を読み上げた。平川さんは終了後の取材に「岩木山嶽地区にある職場から白神山地が見える。その中身を知り他県の小中学生をガイドしたい」と胸を膨らませた。

履修証明制度は、大学の社会貢献を促進するため創設された。同講座は、生物の多様性などをテーマにした教養科目と、白神を深く学ぶ特設科目を組み合わせた計143時間で構成。120時間以上の講義履修など要件を満たすと、学長が履修証明書

を発行する。2年間の受講料は7万円。(鎌田秀人)

東奥日報社提供

陸奥新報 17面 (平成28年12月20日付)



地域住民や学生が参加した貴船神社のしめ縄作り

学生も作業に挑戦

神社奉納へ 伝統のしめ縄作り

弘前市取上の取上公末、新年を迎える準備民館で18日、隣接する貴船神社に奉納するたしめ縄作りが行われた。近年は、主催する取上町会、メンバーの高齢化が進んで、メンバーの減少が懸念され、昨年からは、弘前大学に学生の協力を要請。相談を受けた同大学COC推進室の野口拓郎助教が呼び掛け、今年も7人の学生が参加した。

しめ縄作りは、同町会による藩政時代中期から続く伝統行事。毎年、弘前市取上の取上公末、新年を迎える準備民館で18日、隣接する貴船神社に奉納するたしめ縄作りが行われた。近年は、主催する取上町会、メンバーの高齢化が進んで、メンバーの減少が懸念され、昨年からは、弘前大学に学生の協力を要請。相談を受けた同大学COC推進室の野口拓郎助教が呼び掛け、今年も7人の学生が参加した。

しめ縄は25日に本殿へ飾り付ける。しめ縄作りは初めてという人文社会科学学部1年の工藤紅音さんは「こうした経験はめったにできない。学生が地域の人と交流できる場としても貴重で、アットホームな雰囲気の中で教えてもらえた」と笑顔。阿部会長は「若い人にもしめ縄作りの伝統を伝えていきたい。来年は町外への参加告知も考えている」と話した。(船越太郎)

陸奥新報社提供

陸奥新報 5面 (平成29年2月1日付)

「挑戦楽しむ風土に」

弘大で平川市長が講演

弘前大学(佐藤敬学
長)は31日、文部科学
省の「地(知)の拠点
整備事業(COC事
業)」による人材育成
の一環として、長尾忠
行平川市長による講演
会を大学構内の50周年
記念会館で開催。幹部
職員や教員ら約80人が
聴講した。

同大と同市は昨年、

地域の課題に適切に対
応するための包括連携
協定を結び、地域活性
化や食産業振興などに
関する4事業を進めて
いる。講演の前半は、
長尾市長がこれらにつ
いて概要説明した。

後半では、まちの個

性の確立を図るための
「7つの挑戦」として
取り組む福祉、産業、
文化などの振興策につ
いて語った。市のバイ
オマス産業都市構想で



平川市の「7つの挑戦」について
説明した長尾市長

は、バイオマス発電の
排熱を施設園芸に使う
野菜栽培のほか、魚の
陸上養殖にもつなげる
と説明。その候補とし
て「フグの養殖をでき
ないかを構想に入れて
いる」とした。

また、これらを軌道
に乗せるためのポリシ
ーについて「挑戦なく
して成長なし。失敗を
許容し、挑戦を楽しむ
風土を市に根付かせた
い」と語った。

(渋谷紘一)

陸奥新報社提供

東奥日報 19面 (平成29年3月8日付)

分野横断 研究者ら交流

弘大の若手・新任 70人が成果発表

弘前大の若手や新任の研究者による研究成果発表会がこのほど、同大の学生会館で行われた。研究者ら約70人が一堂に集い、専門分野の垣根を越え交流を深めた。

弘大によると、発表の対象は45歳以下か弘大在籍2年以内の研究者。研究成果を1人1分の持ち時間で発表したりポスター展示で紹介した。佐藤敬学長ら学内だけでなく、市職員など学外の関係者も聞き入った。弘大食料科学研究所の永長一茂准教授(42)はモデ

ル動物シヨウジシヨウバエのエサに、県産のリンゴやイシモズクを添加した結果、がん化のおそれのある「DNA変異細胞」の除去が進んだ研究成果を発表。「研究所は青森市にあり、他学部の研究者との交流があまりなく、話す機会があつてうれしい」と話した。

参加者による投票の結果、優秀賞には教育学部の島田透講師、医学部付属病院の菊池英純助教、理工学研究科の太田俊助教の3人が輝いた。

同日は健康や被ばく医



研究成果を紹介しながら交流する弘大研究者

療、生物資源活用などをテーマとした「青森ブランド価値創造研究」の成果も発表された。(鎌田秀人)

東奥日報社提供

■ 次世代のりんご加工品を探れ!! -平川市で学ぶ りんごのFarm to Table- チラシ

弘前大学 地(地)の拠点 弘前大学 地域特定プロジェクト志向専門人育成プログラム

**ヒントは、
現場にある。**

**次世代の
りんご加工品を探れ!!**

- 平川市で学ぶ りんごの Farm to Table -

弘前大学学生対象 インターンシップ

平成29年1月から開始 **参加者募集**

12/19日 本インターンシップに関する説明会を開催します。
ぜひ説明会に参加してください。

12:00~12:30 総合教育棟318講義室

事業概要

六次産業化・ブランド化を目指す現場を体験します。

現在、青森県では、県が世界に誇る「食の豊かさ」に着目して、農水産品の六次産業化やブランド化を進める「食でとことん」プロジェクトを実施しています。

本インターンシップでは、青森県平川市の木村食品工業と、JA津軽みらいのご協力のもとで、本学学生に農水産品の六次産業化・ブランド化の現場体験の機会を提供します。

農学生命科学部以外の学生の参加も大歓迎です。



活動内容

青森りんごを使った商品開発に挑戦します。

本インターンシップでは、「次世代のりんご加工品を探れ!!」をテーマに、青森県の農業経済に関するワークショップや、りんごの生産・加工・流通の職場体験を経て、りんごを使った商品開発に取り組みます。

- りんご生産・加工・流通の現場体験
- りんご加工品の商品開発

商品開発については、本学の教員も指導・支援にあたります。



対象学生

弘前大学の1~2年生が対象です。

本インターンシップは、弘前大学の「地域特定プロジェクト志向専門人育成プログラム」の一環として実施され、弘前大学に所属する学生1~2年生が対象です。学部は問いません。

ブランド化や新商品開発に関心のある学生、卒業後に即戦力として活躍したい学生、青森の未来を切り拓く「志のある公務員」を目指している学生の参加を期待します。

実施時期・場所

週に1回、現場まで送迎あります。

【実施時期】 平成29年1月~2月
週1回の活動を5回程度
学内での振りかえり
ワークショップを5回程度

【場 所】 弘前大学および木村食品工業(平川市)
JA津軽みらい(平川市)
※平川市までは公用車にて送迎します

問合せ・申込先

本インターンシップについての問合せ先 弘前大学COC推進室(総合教育棟3階) 西村碧平
TEL 0172-39-3863 E-Mail k-nishi@hirosaki-u.ac.jp

本インターンシップの詳細や申込方法については、12月19日(月)の説明会でお知らせします。

■ ブランデュエ弘前FCを知ろう！ チラシ

地(知)の拠点 弘前からJリーグチームを!! 弘前大学 地域教育プロジェクト

地域密着型サッカーチーム
ブランデュエ弘前FC
を知ろう!

試合観戦・サポート業務
参加者募集

7.3 SUN
8:50-17:00
弘前市運動公園陸上競技場
費用無料 先着10名
弘前大学生対象 要事前申込

申込期限 7月1日(金) 正午まで

■ブランデュエ弘前FCとは

ブランデュエ弘前FCは、2012年に設立され、弘前市を本拠地としている地域密着型サッカーチームです。チーム名のブランデュエとは、自神山の自神と音の響きを持たせた造語で、blancはフランス語で白、dieuは神を意味します。2016シーズンは現在、東北社会人サッカーリーグ3位と好調で、Jリーグへの道が開けてくるリーグ優勝を目指しています。

プログラム(予定)

8:50-12:00	ボランティアスタッフのサポート
12:00-13:00	お昼休憩
13:00-15:30	試合観戦 vs FCプリメーロ(福島県)
15:30-17:00	ボランティアスタッフのサポート

当日は現地集合・現地解散です。

※参加者は、学生教育研究実習指導員(学研実)、学生教育研究実習責任者(学研指)等の役割に加入する(している)必要があります。

申込先 弘前大学COC推進室 総合教育棟 1階 担当:工藤・小寺 TEL: 0172-39-3799 Mail: jm3799@hirosaki-u.ac.jp

■ やわラボに参加してみよう チラシ

地域教育プロジェクト 地(知)の拠点

社会人&学生の交流会 **やわラボ**
に参加してみよう 第1弾

【やわラボとは?】
県内在住の社会人&学生が**ユルい雰囲気**で楽しく話す場が、「やわラボ」となっております。

【いつどこで開催?】
月2回のペースで、**弘前大学コロナ弘大1階**で開催。時間は**18時から20時半**まで。
途中参加、途中退室OKです。事前申込みも不要です。

【どのような話がされている?】
決まった議題はありません。一つの議題を参加者全員で話すわけでもありません。
小さなグループで楽しく話すのが基本形となっています。話し好きの方々が集まっており、孤立することはまずありませんので、初参加の方でも安心して参加できます。

【どのような社会人が参加?】
20代~50代が中心。職種は様々です。
たとえば、地元IT企業、弘前市役所、弘南鉄道、弘南バス、NPO法人スボネット弘前、陸奥新報、弘前経済新聞、毎日新聞社、地域おこし協力隊(青森市・弘前市)、青森朝日放送局(ABA)、弘前観光コンベンション協会、ダイハツ青森、青森県庁、青森県議会議員、起業家などが過去の参加者となっています。

【どのような学生が参加?】
就活や卒論、課外活動の悩み相談などを社会人の方々に乘っていただいたりもしています。男女比は半々。
所属している学部は様々です。**学部1年生の参加も大歓迎です!**

【ご不明な点がありましたら】
弘前大学COC推進室の野村 (noyuchi@hirosaki-u.ac.jp) までご連絡くださいませ。

就活に役立つ交流ができるかも!

申込み不要
途中参加
途中退室OK

開催日時 7月21日(木) 18時~20時半

■ 地域志向型サークル交流会 チラシ

地域教育プロジェクト
地域志向型サークル交流会

弘前大学 地(知)の拠点

他団体の取り組みって
あまり知らないなあ...

他団体と何か
連携できることは
あるかな？

募集

参加費：無料
軽食あり

弘前大学には地域で活動を展開するサークルが数多く存在します。お互いの取り組みを共有し合い、地域のために何ができるかを、ワークショップを通して考えてみませんか？

【参加対象者】
弘前大学の地域志向型サークルに所属する学生

【定員】
15名（先着順）※各団体2名まで

【開催日】
平成28年 **11月9日**（水）16時～17時30分
場所：弘大カフェ2階（右側写真）

【申込先】
学生支援グループ（稲谷）jm3113@hirosaki-u.ac.jp
※名前、学籍番号、団体名、連絡先(電話番号)を記載

【問い合わせ先】
COC推進室（野口）noguchi@hirosaki-u.ac.jp

【申込締切】
10月31日（月） **主催：弘前大学**



■ 青年団の復活を目指すin新郷村 チラシ

地域教育プロジェクト
シリーズ「人口減少社会」

弘前大学 地(知)の拠点

青年団の復活を目指す in 新郷村

地域に活力をもたらす役割を担う青年団。しかし、近年の過疎高齢化により、青年団の弱体化・消滅が全国的な課題になっています。青森県内でも高齢化率が高い新郷村にて、青年団の復活をテーマにしたワークショップを開催します。学生の視点で切り込んでくれる方を募集します。




募集

過疎化を防ぐ取り組みに
挑戦してみたい

将来は公務員として
地域のために働きたい

新郷村に興味がある

このような想いを1つでも
持った学生を募集！！

【参加対象者】
弘前大学の学生 ※学年、学部は問いません

【定員】
3名（先着順） 参加費：無料

【開催日】
平成28年 **11月18日**（金）**13時半～16時**
集合場所：弘大文京キャンパス正門前 **10時20分**集合
開催場所：新郷村役場 ※公用車で移動

【申込先・問合せ先】 ※大学番号は18時頃になります
COC推進室（野口）noguchi@hirosaki-u.ac.jp
※名前、学籍番号、連絡先(電話番号)を記載

【申込締切】
11月10日（月） 昼12時締切

【引率教員】
野口拓郎（COC推進室 助教）

新郷村とは

青森県の南部、十和田湖の東に位置する人口2500の自治体。村民の2人に1人が65歳以上の高齢者という過疎高齢化が進む。観光資源としては『キリストの墓』が全国的に有名。畜産が盛んで、新郷村で作られる飲むヨーグルトは、人気が高い。

■ 民具の活用・保存を考えるフィールドワークin三沢市 チラシ

地域教育プロジェクト 弘前大学

シリーズ「人口減少社会」

民具の活用・保存を考える フィールドワーク in 三沢市







写真は昨年度のフィールドワークの様子
(場所：六川目小学校跡地)

【参加対象者】
弘前大学の学生 ※学年、学部は問いません

【定員】
3名(先着順) 参加費：無料

【開催日】
平成28年 **11月5日(土) 13時~16時**

集合場所：弘大文京キャンパス正門前 **10時** 集合
開催場所：三沢市六川目小学校跡地 ※公用車で移動
※大学到着は18時頃

【申込先・問合せ先】
COC推進室(野口) noguchi@hirosaki-u.ac.jp
※名前、学籍番号、連絡先(電話番号)を記載

【申込締切】
10月26日(水) 昼12時締切

【引率教員】
山田麻子(人文学部・教授) 野口拓郎(COC推進室・助教)

小川原湖民俗博物館(青森県三沢市)は、温泉の付属博物館でしたが、経営者交代後に閉館され、昨年の春に解体が始まりました。

小川原湖民俗博物館の民具は、南部の生活の変遷を知る上で、欠かすことのできない資料群でした。

国・県・市有形民俗文化財に指定されていたものは博物館などに移蔵され、残りの資料のうち300点が弘前大学に運ばれてきました。この運搬する六川目小学校跡地にも数多くの民具が一時保管されています。

このままでは、青森県の貴重な文化財が失われる可能性があります。このような問題は全国的に起きているのも事実で、青森県だけの問題ではありません。

もしこの話を聞いて興味を持ってくれた学生がいれば、是非、このフィールドワークに参加して欲しいです。

■ しめ縄づくり体験してみませんか？ チラシ

地域教育プロジェクト 弘前大学

しめ縄づくり体験してみませんか？

正月飾りで用いられる「しめ縄」。今では既製品を購入して飾ることが多くなっていますが、弘前大学の近隣町会の取上地域では、しめ縄を住民の方々が毎年自ら作製し、地域の神社に奉納されています。

この度、このしめ縄づくりの体験参加者を募集することになりました。地域の伝統行事や、地域づくり、地域の方々との交流などに興味がある学生の参加を募集します。




【参加対象者】
弘前大学の学生 ※学年、学部は問いません

【定員】
4名(先着順) 参加費：無料 **屋食提供有り**

【開催日】
平成28年 **12月18日(日) 10時~14時**

集合場所：取上公民館(弘前市取上3丁目1-1 貴船神社隣)
弘大文京キャンパスから徒歩15分
※現地集合・現地解散になります 9時50分集合

【申込先・問合せ先】
COC推進室(野口) noguchi@hirosaki-u.ac.jp
※名前、学籍番号、連絡先(電話番号)を記載

【申込締切】
12月12日(月) 昼12時締切

【引率教員】
野口拓郎(COC推進室 助教)

参加される方は汚れても大丈夫な服装での参加をお願いします

募集

■ シンポジウム 大学生と「子どもの貧困」 チラシ

シンポジウム
大学生と「子どもの貧困」
 一広がる「居場所」づくり

学習支援や子ども食堂といった「子どもの貧困」支援の現場では、大学生が重要な役割を果たしています。このシンポジウムでは、「大学生」をキーワードに「子どもの貧困」支援を考えます。大学生を巻き込んだ「子どもの貧困」支援の可能性や課題とは何でしょうか？実際に活動している大学生、大人の方のご報告を伺いながら皆さんで考えていきましょう！

第1部 報告

- 佐藤千恵子 (八戸学院短期大学教授)
- 佐藤まさ (子ども食堂すこやかプロジェクト事務局長)
- 斎藤めぐみ (弘前市母子寡婦福祉会副会長)
- 相馬侑奈 (弘前大学教育学部学生<Teens&Law>)
- 関俊帆・高橋廣成・松本知也・高沢奈緒
 佐藤祥・小野舜太郎・細川楓夏・遠藤明梨 (弘前大学教育学部学生)

第2部 ワークショップ

「これからの子どもの貧困支援の課題と展望」

参加者で情報交換しながら交流しましょう

2017年3月4日(土) 14:00~16:30
 弘前大学教育学部 1階大教室 入場無料(事前申込不要)
 対象: 一般市民、大学生

企画: 弘前大学教育学部社会教育研究室
 問合せ先: 松本大 (弘前大学教育学部) 電話: 0172-39-3474 Eメール: dai@hirosaki-u.ac.jp

地域教育プロジェクト

■ 起業家塾 チラシ

第1回

弘前大学 地(知)の拠点 地(物)の拠点

第1回 弘前大学 起業家塾

弘前大学起業家塾は、学生や研究者を対象に起業家育成プログラムを実施し、産業の促進、育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度研修期間中に各チーム編成を行い、最終年度までのプログラムをチームで運動してもらいます。また、メンター制度導入により、ビジネスモデル等の課題解決に向けて強力にサポートいたします。最終年度のビジネスコンテスト優勝チームには豪華賞品および弘前大学奨励金を1年間無償貸与します。メール又は電話にて、エントリー受付中です(6月17日(金)締切)。随時御応募下さい!

2016年 対象 青森県内の大学生、大学院生、研究者、経営者

6月22日水 受講料 無料 18:00-20:15

会場 弘前大学総合教育棟4階 406講義室

<https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/kigyokajyuku>

講演会

「「リアルテック」ベンチャーが世界を変える ~リアルテックファンドのご紹介~」

<講師> リアルテックファンド グロースマネージャー **山家 創 氏**

<講師プロフィール> 東北大学経済学部を卒業、大学在学中より同大学発ベンチャー企業に参加。その後、国内半導体メーカーを経て、政府系ファンドの出資を受けた液晶パネル向けコントローラICベンチャーに参加。経営企画業務やサプライチェーン管理を担当。研究開発型ベンチャーにおける事業計画立案や新規事業推進などの経験を持つ。2015年にリアルテックファンドに参加。エレクトロニクスや新素材領域を中心とした投資・育成を担う。

ワークショップ

「収支計画作成の基礎」

<講師> みちのく銀行 地域創生部 担当役 **小向 耕介 氏**

<講師プロフィール> 平成15年4月 みちのく銀行入行し黒石支店、八戸営業所で法人融資を担当。平成20年4月 アグリビジネスを学ぶため日本政策金融公庫農林水産事業に転出。平成21年4月 アグリビジネス推進の専任担当として本部勤務(現在に至る)。平成22年4月 農林水産省より6次産業化ボランティアプランナーに任命。

主催: 弘前大学研究・イノベーション推進機構
 共催: 弘前市・公益財団法人21世紀共同産業総合支援センター・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社(予定)・弘前商工会議所
 ひろさき官庁連携フォーラム・日本政策金融公庫・みちのく銀行・青森銀行・青森県中小企業団体中央会
 後援: 青森県

国立大学法人弘前大学研究・イノベーション推進機構
 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当: 山本 0172-39-3912 sangaku@hirosaki-u.ac.jp

第2回

弘前大学 地(知)の拠点 地(知)の拠点

第2回 弘前大学 起業家塾

弘前大学起業家塾は、学生や研究者を対象に起業家育成プログラムを実施し、起業の促進、育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度は参加者同士によるチーム編成を行い、最終回までのプログラムをチームで活動してもらいます。また、メンター制度導入により、ビジネスモデル等の課題解決に向けて強力にサポートいたします。最終回のビジネスコンテスト優勝チームには豪華商品およびコロナ弘大レンタルラボを1年間無償貸与します。

2016年 対象 青森県内の大学生、大学院生、研究者、経営者

7月1日 金 18:00-20:00 受講料 無料

会場 弘前大学総合教育棟4階 406講義室

詳しくはこちら <https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/kigyokajyuku>

講演 ワークショップ

「事業設計・ビジネスモデルのワークショップ」

<講師> 東京大学 産学協創推進本部 助教 菅原 岳人 氏

<講師プロフィール> 岩手県盛岡市出身。IT系コンサルティングファームを経て、2009年より東京大学産学協創推進本部にてインキュベーション・マネージャーとして大学発ベンチャーの創設・成長支援を担当。卒業企業にはモルフォ、ユウグレナ、ペプチドリームなど。また「東京大学アントレプレナー道場」「Todai To Texas」等のプログラム・マネージャーとして、アントレプレナーシップ教育を担当。7年間で1,300名超の学生が受講。大学を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成に従事している。

主催：弘前大学研究・イノベーション推進機構
共催：弘前市・公益財団法人21あおもり産業総合支援センター・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社・弘前商工会議所
ひろさき産学官連携フォーラム・日本政策金融公庫・みちのく銀行・青森銀行・青森県中小企業団体中央会
後援：青森県

国立大学法人弘前大学研究・イノベーション推進機構
研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当：山本 0172-39-3912 sangaku@hirosaki-u.ac.jp

第3回

弘前大学 地(知)の拠点 地(知)の拠点

第3回 弘前大学 起業家塾

弘前大学起業家塾は、学生や研究者を対象に起業家育成プログラムを実施し、起業の促進、育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度は参加者同士によるチーム編成を行い、最終回までのプログラムをチームで活動してもらいます。また、メンター制度導入により、ビジネスモデル等の課題解決に向けて強力にサポートいたします。最終回のビジネスコンテスト優勝チームには豪華商品およびコロナ弘大レンタルラボを1年間無償貸与します。

2016年 対象 青森県内の大学生、大学院生、研究者、経営者

7月14日 木 18:00-20:00 受講料 無料

会場 弘前大学総合教育棟2階 大会議室

詳しくはこちら <https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/kigyokajyuku>

講演会

「産学官連携を活用した、レジリエンスを高める経営」

<講師> 特定非営利活動法人産学連携学会 理事 株式会社ウェザーコック 専務取締役 山本 一枝 氏

<講師プロフィール> 1977年 ウェザーコック創設
1984年 株式会社ウェザーコック設立 取締役就任
2001年～現在 北海道中小企業家同友会産学連携研究会 (H O P E) 副代表世話人
2008年度～2011年度 北海道科学技術振興委員会
2012年度～2013年度 J S T 産学官連携ジャーナル編集委員
2005年～2009年、2012年～現在 産学連携学会理事

ワークショップ

「ファイナンス戦略」

<講師> 日本政策金融公庫 青森支店 融資課長 松重 有祐 氏

<講師プロフィール> 札幌市出身。平成7年3月弘前大学人文学部経済学科卒業。
平成7年4月 国民金融公庫 (現日本政策金融公庫国民生活事業) 盛岡支店に入社。
その後、情報システム、空南支店、仙台支店、北海道地区総括室を勤務し、
平成26年4月より青森支店融資課長として勤務中。
趣味は野球 (現在少年野球チームのコーチとして奮闘中！)

主催：弘前大学研究・イノベーション推進機構
共催：弘前市・公益財団法人21あおもり産業総合支援センター・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社・弘前商工会議所
ひろさき産学官連携フォーラム・日本政策金融公庫・みちのく銀行・青森銀行・青森県中小企業団体中央会
後援：青森県

国立大学法人弘前大学研究・イノベーション推進機構
研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当：山本 0172-39-3912 sangaku@hirosaki-u.ac.jp

第4回

弘前大学
地(知)の拠点

第4回 弘前大学

起業家塾

弘前大学起業家塾は、学生や研究者を対象に起業家育成プログラムを実施し、起業の促進、育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度は参加者同士によるチーム編成を行い、最終回までのプログラムをチームで活動してもらいます。

また、メンター制度導入により、ビジネスモデル等の課題解決に向けて強力にサポートいたします。最終回のビジネスコンテスト優勝チームには豪華商品およびコロナ大レantalラホを1年間無償貸与します。

2016年 対象 青森県内の大学生、大学院生、研究者、経営者

10月13日 木

18:00-20:00 受講料無料

会場 弘前大学総合教育棟2階 大会議室

<https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/kigyoukajyuku>

「マーケティングの本質を実感するワークショップ」

<講師>
四元マーケティングデザイン研究室 代表 四元 正弘 氏

<講師プロフィール>

1984年東京大学工学部卒業。サントリー（株）を経て、1987年に電通に転職。電通総研・研究主席としてメディアビジネス分析や消費者心理分析、コンサルティング業務に従事。2013年に電通を退職し、個人事務所を設立。

また同年10月から21あおもり産業総合支援センターにてプロテオグリカンのマーケティング・サポートに従事。

専門領域は、消費心理・動向分析、地域ブランド。「デジタルデバイド」など著書多数。

主催：弘前大学研究・イノベーション推進機構
 共催：弘前市・公益財団法人21あおもり産業総合支援センター・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社・弘前商工会議所
 ひろさき産学連携フォーラム・日本政策金融公庫・みちのく銀行・青森銀行・青森県中小企業団体中央会
 後援：青森県

国立大学法人弘前大学研究・イノベーション推進機構
 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当：山本 0172-39-3912 sangaku@hirosaki-u.ac.jp

第5回

弘前大学
地(知)の拠点

第5回 弘前大学

起業家塾

弘前大学起業家塾は、学生や研究者を対象に起業家育成プログラムを実施し、起業の促進、育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度は参加者同士によるチーム編成を行い、最終回までのプログラムをチームで活動してもらいます。

また、メンター制度導入により、ビジネスモデル等の課題解決に向けて強力にサポートいたします。最終回のビジネスコンテスト優勝チームには豪華商品およびコロナ大レantalラホを1年間無償貸与します。

2016年 対象 青森県内の大学生、大学院生、研究者、経営者

10月26日 水

18:00-20:00 受講料無料

会場 弘前大学総合教育棟4階 405講義室

<https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/kigyoukajyuku>

「ビジネスモデルで考える事業の収益化ワークショップ」

<講師>
青森銀行 地域振興部 調査役 小野 毅 氏

<講師プロフィール>

- ・青森県田舎館村出身
- ・平成11年3月弘前大学理学部生物学科卒業
- ・平成11年4月株式会社青森銀行入行
乙供支店、県庁支店、能代支店に勤務
- ・平成21年4月三菱UFJ個人財務アドバイザーズ株式会社へ出向
- ・平成22年4月から本部勤務（営業統括部、法人営業部、地域振興部）
主に法人営業・地域振興を担当

主催：弘前大学研究・イノベーション推進機構
 共催：弘前市・公益財団法人21あおもり産業総合支援センター・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社・弘前商工会議所
 ひろさき産学連携フォーラム・日本政策金融公庫・みちのく銀行・青森銀行・青森県中小企業団体中央会
 後援：青森県

国立大学法人弘前大学研究・イノベーション推進機構
 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当：山本 0172-39-3912 sangaku@hirosaki-u.ac.jp

第6回

弘前大学 地(知)の拠点 地(知)の拠点

2016年 **11月14日** 月 18:00-20:15

受講料 無料

会場 弘前大学総合教育棟2階 大会議室

<https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/kigyokajyuku>

起業家塾

ビジネスコンテスト開催！
審査通過グループによるビジネスプランのプレゼンテーションで優秀者を決定します。

ビジネスコンテスト

書類審査通過グループによるプレゼンテーション！
起業家の卵たちによる最終プレゼンは必聴の価値あり！

講演 「田村講師による特別講演」
日本ベンチャー学会 事務局長 **田村 真理子** 氏
＜講師プロフィール＞
日本経済新聞社、日経BP社を経て、日本ベンチャー学会事務局長、早稲田大学アントレプレヌール研究会理事、早稲田大学女子大生起業家交流会会長、経済産業省、文部科学省等の政府委員等に就任。主にベンチャー企業や起業家に関する調査・取材を手掛けながら、事業創造論や事業計画、キャリアクリエイト等を大学で担当している。

特別講演 「ビジネスプラン発表」
第4回目講師
四元マーケティングデザイン研究室 代表 **四元 正弘** 氏

審査発表・表彰式 【ビジネスコンテスト審査員】
●日本ベンチャー学会 事務局長 田村真理子 氏
●株式会社エーアイスクエア 代表取締役 石田正樹 氏
●インタープロテイン株式会社 代表取締役社長 藤田雅人 氏
●フォーターフーバー社 代表取締役社長 石井 健 氏
●四元マーケティングデザイン研究室 代表 四元正弘 氏
●弘前大学長 佐藤 登
●弘前大学 理事(研究担当) 郡 千寿子
●弘前大学 副理事 村下公一

主 催：弘前大学研究・イノベーション推進機構
共 催：弘前市・公益財団法人21あおもり産業総合支援センター・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社・弘前農工会議所
ひろさき産学連携フォーラム・日本政策金融公庫・みちのく銀行・青森銀行・青森県中小企業団体中央会
後 援：青森県

国立大学法人弘前大学研究・イノベーション推進機構
研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当：山本 0172-39-3912 sangaku@hirosaki-u.ac.jp

■ 白神自然環境人材育成講座 チラシ



白神を学ぶ。

弘前大学 白神自然環境人材育成講座

- 募集人員 10名程度
- 受講期間 平成28年9月末から2年間
- 受講料 受講料は2年間で70,000円

地(知)の拠点

「白神自然環境人材育成講座」募集説明会
募集にあたり、以下の日程で説明会を開催します。
みなさんの参加をお待ちしています！
日時：平成28年8月19日（金）18:30～
場所：弘前大学コラボ弘大8F八甲田ホール

平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」
青森ブランドの価値を創る地域人財の育成
平成28年度 事業成果報告書

発行日 平成29年4月

編集・発行 国立大学法人弘前大学 COC推進室
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL 0172-39-3305 / 3306 FAX 0172-39-3309
E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp
Web <http://coc.hirosaki-u.ac.jp>



文部科学省

地(知)の拠点



HIROSAKI
UNIVERSITY